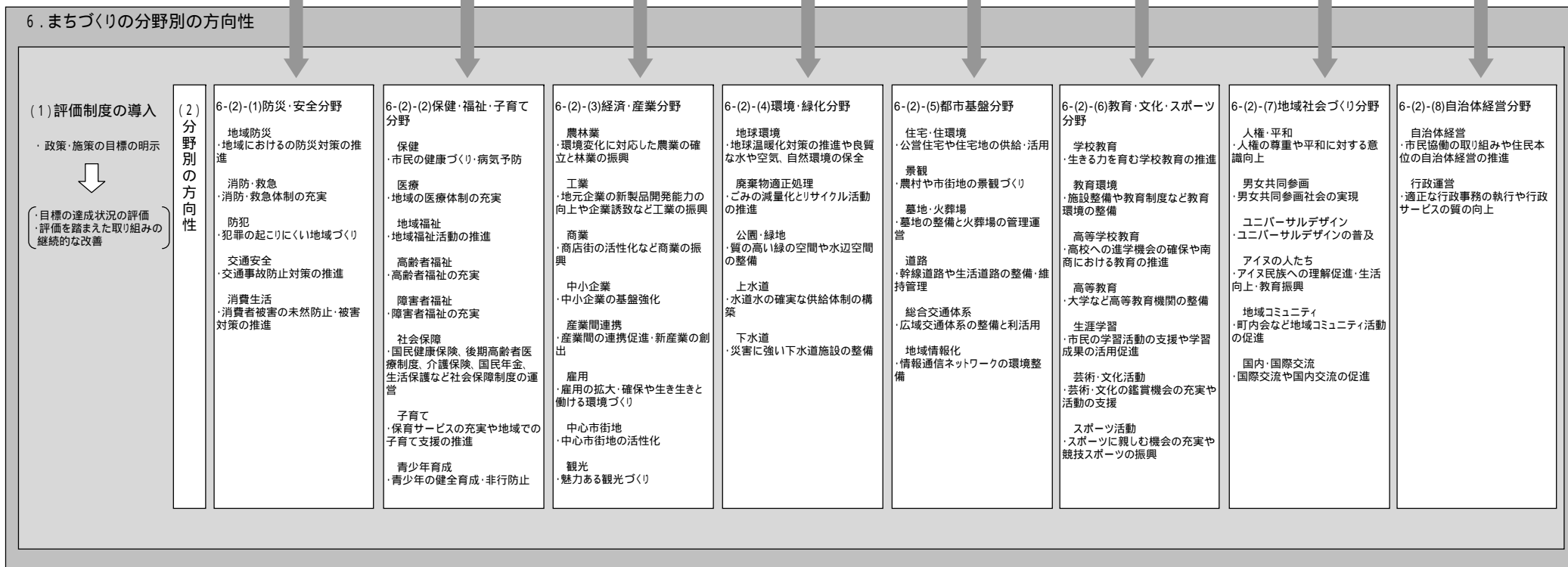
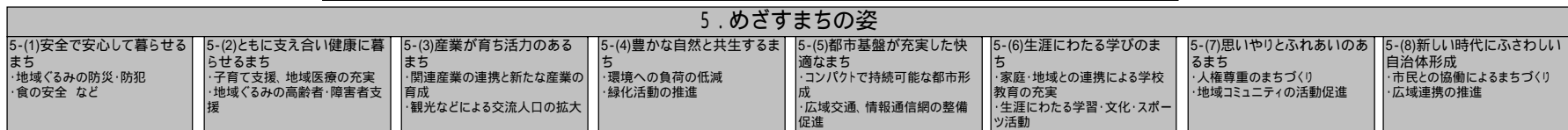
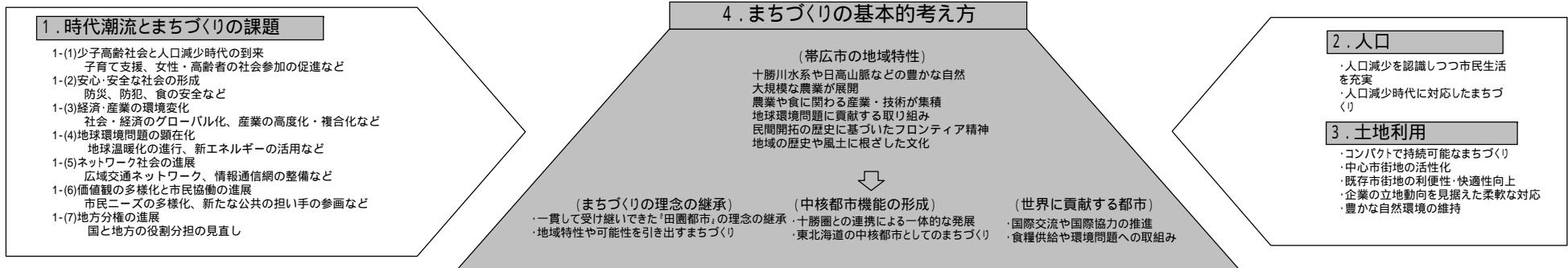


答申書(素案)の構成

平成20年8月18日
総合計画策定審議会 資料1



< 答申書（素案）修正案【前回議論部分】 >

はじめに

現在、帯広市は第五期帯広市総合計画に続く新しい総合計画の策定作業をすすめています。帯広市総合計画策定審議会条例に基づいて平成19年10月、帯広市長は帯広市総合計画策定審議会に対して新しい総合計画の策定にあたって意見提言を述べるよう諮問いたしました。

これを受けて、本審議会は、他都市に置き換えられない自然と社会と歴史をもつ帯広市という地域性に根ざしながら、今の時代の潮流と課題を確認し、その課題に応答する帯広市の理想像を追い求めて、共に議論を重ねてきました。

その議論においては、多様な立場と意見に対する相互理解がまず大事であると考えました。しかし、同時に、その立場と意見の違いによる対立・葛藤の中から横断的な新地平を見つけ出す工夫も極めて重要であると認識してきました。

次に、本審議会は、今回の総合計画の策定では、過去の総合計画からの継承の側面を持つことを忘れてはならないと考えました。その一方で、この総合計画は将来の世代に大きな影響を及ぼすこととなるため、将来の帯広市民への配慮と責任を自覚した新しさの創出も大切であると考えてきました。そこで本審議会は、過去の総合計画への顧慮と新しさの創出とのバランスを念頭に置き、また委員各自の自己革新を通して、帯広市のまちづくりの基本方向を討議し、その整理に努めました。

その結果、平成20年5月には、市長に中間報告を提出することができました。

その後も、帯広市のまちづくりのめざす姿や分野別の取り組むべき施策内容などについて、本審議会は、三つの専門部会を設置して幅広い項目にわたり議論を発展・深化させました。

最終的に、今回の総合計画の策定において様々な新しさの創出を盛り込むことができたが、その中で最も強調すべきことは、次の3点であると確認できます。

一に、人口減少時代の到来を認識し、めざす都市の基本的姿として、量的拡大を抑制し多元的に充実した市民生活という考えを明確に打ち出したことです。

二に、計画手法として、自治体が計画の策定過程の中で、その計画の実行に関わる評価について自ら位置付け、つぎの行政活動を選択していく評価制度を初めて採り入れたことです。

三に、全国公募の中から「環境モデル都市」に選定されたことは、地球環境時代に貢献する都市・帯広市を世界に発信する絶好の機会であると捉え、その推進を新しい総合計画に盛り込んだことです。

本審議会はこれまでの審議結果を整理し、ここに答申するものであります。

6 まちづくりの分野別の方向性

めざすまちの姿を実現するための、まちづくりのそれぞれの分野における課題とその対応の方向性を示します。

また、実施にあたっては、評価制度の導入により、めざすまちの姿の実現に向けた着実な取り組みが必要です。

(1) 評価制度の導入

めざすまちの姿を実現するためには、あらかじめ政策・施策の目標を明らかにすることが必要です。また、その目標の達成状況について評価を行い、評価結果を踏まえた取り組みの継続的な改善が必要です。

目標の達成状況をより適切に評価するためには、行政活動が行われた成果を客観的に反映する数値を指標として用いるとともに、併せて目標の達成状況に対する市民の実感を調査し、評価に反映させるなど、市民の視点に立った評価の手法を併用した制度とすることが重要です。

(2) 分野別の方向性

(防災・安全分野)

市民が安全で安心して暮らすためには、地域防災体制づくりをすすめ自然災害に対して備えるとともに、消防力を充実することが重要です。

また、犯罪や交通事故などの被害を防止する取り組みを、行政、関係団体、地域などが連携してすすめる必要があります。さらに、市民が安心して消費活動ができる環境づくりが必要です。

地域防災

地震や台風などの自然災害から市民の生命や財産を守り、被害を最小限に抑えるためには、行政と連携しながら地域全体で防災対策に取り組むことが必要です。

このため、日頃から市民の防災意識を高めるとともに、地域における自主防災組織の育成や、災害時において援護が必要な人たちに迅速に対応できる体制づくりが必要です。

また、災害時において、水や食料などの生活必需品を迅速に供給できるよう、備蓄物資の確保に加え、民間企業から優先的に供給を受けることのできる体制

答申書(素案)における新たな視点について

答申書(素案)の項目		新たな視点
1 時代潮流とまちづくりの課題		少子高齢社会と人口減少時代の到来が現実のものとなっており、定住人口や交流人口の確保など活力ある地域社会を維持していくことが課題であること
		自然災害や重大な事件・事故、食の安全に対する信頼が失われているという状況を時代潮流として認識し、安全で安心なまちづくりが課題であること
		経済活動において海外との競争は一層激しくなることが懸念されており、環境の変化を的確に捉えながら地域産業を振興していくことが課題であること
		これまで、環境保全は主に自然環境の保全に視点が置かれていたが、地球温暖化など地球環境問題を認識し、地球環境の保全に対する貢献が課題であること
		北海道横断自動車道の整備がすすみ、今後さらに道央圏などとの交通アクセスの向上が期待されている状況にあり、広域交通ネットワークを地域の発展のために活用していくことが課題であること
		NPOなど新たな公共の担い手が公共サービスの一部を担うようになってきており、様々な主体のまちづくりへの参加により、活力ある地域社会を形成していくことが課題であること
	国と地方の役割分担の見直しや道州制の導入など地方分権改革に向けた取り組みはさらにすすめられていく状況にあり、分権型社会に対応したまちづくりが課題であること	
2 人口		人口減少時代を迎えているという認識のもと、市民生活の充実に視点を置いたまちづくりをすすめ、定住促進や交流人口の増加をはかること
3 土地利用		市街地の拡大抑制、既存市街地の利便性・快適性の向上に視点を置いた土地利用をすすめること
4 まちづくりの基本的考え方		これまでの東北道の拠点都市としての役割から、東北道の中核都市としての役割を視野に入れたまちづくりをすすめること
		環境モデル都市、食糧供給基地として世界に貢献するまちづくりをすすめること
5 めざすまちの姿 6 まちづくりの分野別の方向性	評価制度の導入	これまででは、評価を行いながらすすめていくことを想定していない計画であったが、計画に政策・施策目標を明示するとともに、目標の達成状況を評価し、取り組みの改善を継続的に行う評価制度を導入すること

答申書(素案)の項目	新たな視点
5 めざすまちの姿 6 まちづくりの分野別の方向性	(地域防災) 近年の地震災害の頻発などを踏まえ、施設の耐震化や災害時に援護が必要な人たちへの対応など地域における防災体制づくりをすすめること
	(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉) これまでの施設による福祉から、住み慣れた地域で生活するために社会全体で支える福祉をすすめるための環境の整備をすすめること
	(中小企業) 商業、工業など、これまでの業種で区分した産業振興に加え、業種を横断し中小企業に視点を置いた産業の振興をすすめること
	(地球環境) 地球温暖化を世界的に取り組まなければならない重要な課題と捉え、バイオマスエネルギーなど地域の資源を有効に活用した地球温暖化対策をすすめること
	(上水道・下水道) 災害時においても安定して上下水道を利用することができるよう、災害に強い施設整備をすすめること
	(住宅・住宅地) コンパクトで持続可能なまちづくりをすすめる視点から、都心部居住を促進すること
	(総合交通体系) 北海道横断自動車道など整備がすすんでいる広域交通ネットワークを交流人口や農産物の物流面などにおいて利活用をすすめること
	(学校教育) 知・徳・体のバランスの取れた教育が求められている状況を踏まえ、豊かな心を育む教育や食育などを推進すること
	(生涯学習) 改正教育基本法において、学習の成果を適切に活かすことができる社会を実現するという理念が示されたことを受け、学習活動の支援のみならず、学習成果を地域づくりにつなげていくこと
	(男女共同参画) 男女共同参画を生涯学習の一環として捉えるのではなく、人々が互いに尊重し合う地域社会づくりの一つとして捉え、性別に関わらず意欲と能力に応じて、様々な分野で活躍できる男女共同参画社会を実現すること
(ユニバーサルデザイン) 全ての人が安全で安心して暮らすことができる社会づくりという視点に立ち、施設、心の両面からユニバーサルデザインによるまちづくりをすすめていくこと	
(アイヌの人たち) アイヌ民族を先住民族として認めることを求める国会決議がなされる中、先住民族であるアイヌの人たちを尊重するという視点から取り組みをすすめること	
(自治体経営) 分権型社会の進展を踏まえ、NPO法人、ボランティア組織など多様な主体と行政が協働し、質の高い公共サービスの提供をすすめること	

答申書（素案）に対する意見とその対応案

（意見への対応案の区分）

A 答申書に反映するもの

B 同様の趣旨が含まれているもの

C 答申書には反映しないが、計画策定作業の中で検討が必要なもの

答申書(素案)の項目	答申書(素案)に対する意見要旨	委員名	対応区分	意見への対応案
はじめに	「はじめに」の部分において、環境モデル都市など特徴づけとなる部分やこれからこういったまちにしたいといった理念の肉付けが必要。		A 答申書に反映するもの	強調すべき新しい考え方として、人口減少時代、評価制度、環境モデル都市について記述します。
1. 時代潮流とまちづくりの課題	<p>人口の減少と少子高齢者社会の到来は、地域活力の停滞と、社会保障費の増大などを招くということが懸念されているが、では、「社会保障費」は、経済社会の発展を阻害し、地域活力の停滞を招くものなのか？</p> <p>これから、超高齢者社会<4人に1人あるいは、3人に1人が65歳以上>を迎えることは事実であり、「お荷物」的な考えでは、将来は悲観的な発想しか浮かばないのではないか？単なるムード<なんとなくの予想>だけで判断していることはないだろうか？</p> <p><u>社会保障分野での波及効果を学び、共通認識することが必要だと考えます。海外などの事例から学ぶことも必要。</u></p> <p><u>超高齢者社会の中で、高齢者が生き生きと生活できることが、活力ある地域社会を作ることにつながる一つの考えだと思います。</u></p> <p>何をどのようにすると、高齢者が生き生きするのか？ 健康であること、そのための医療、福祉が充実していること。また、文化や芸術、趣味や余暇などを楽しむことができる。これが生き生きの源です。 このようなことを考えてみると課題はおのずと見えてくるのではないのでしょうか。</p>		B 同様の趣旨が含まれているもの	<p>社会保障費の増大による一般的な影響について記述したものであり、社会保障に経済波及効果があることはご意見のとおりです。</p> <p>なお、生涯を通じて健康で生き生きと暮らし、高齢者が一層活躍できる社会づくりが課題であることについては記述しており、ご意見の趣旨は盛り込まれているものと考えます。</p>
	<p>食料基地として維持発展し、これからも、安心、安全、安定的な役割を果たすことが課題であるが、それが向こう10年間継続できるのでしょうか。離農者の増加と、酪農家の廃業、海外との競合など。先行き厳しいのが現実。さらに、地球環境の悪化は、将来の食料危機をもたらすのではないのでしょうか。食料基地として、将来にわたって確固たる基盤を持続するためには、それなりの強固な市としてのビジョンを持つ必要性を感じます。</p>		B 同様の趣旨が含まれているもの	<p>P10「めざすまちの姿」において、経済・産業の変化を捉えた産業間の連携の必要性について記述しているほか、P18「まちづくりの分野別の方向性」の「農林業」において、生産性・収益性の向上や地域ブランドを活かした競争力の向上などについて記述しており、趣旨は盛り込まれているものと考えます。</p> <p>市としましても、今後、分野別計画において検討していくことになります。</p>
4. まちづくりの基本的考え方	(世界に貢献する都市)		A 答申書に反映させるもの	<p>答申において強調すべき点の一つが環境モデル都市の推進であることを、「はじめに」の中で記述します。</p> <p>また、「まちづくりの基本的考え方」の中では、『環境モデル都市』としての先駆的な取り組みを『食糧供給基地としての役割』の前に出し、強調した記述とします。</p>

答申書(素案)の項目		答申書(素案)に対する意見要旨	委員名	対応区分	意見への対応案
5. めざすまちの姿	都市基盤が充実した快適なまち	タイトルの「都市基盤が充実した」は取り組みそのものを表したものであり、めざすまちの姿としては適切な表現ではない。		A 答申書に反映するもの	「機能的で快適に暮らせるまち」に修正します。
	新しい時代にふさわしい自治体形成	タイトルの「新しい時代」、「ふさわしい」の意味が不明確である。		A 答申書に反映するもの	「分権時代に対応した自治体形成」に修正します。
7. まちづくりの分野別の方向	防災・安全分野	(地域防災) ・災害発生時における地域のすばやい対応が重要なことは過去の災害地で救助された人の90%以上が近隣の人たちによって救助されている実態から証明されています。		B 同様の趣旨が含まれているもの	地域防災の必要性や自主防災組織の育成などについて記述しており、ご意見の趣旨は盛り込まれているものと考えます。
		(地域防災) ・冬季の災害に備えた暖房機能の体制づくり		C 答申書には反映しないが、計画策定作業の中で検討が必要なもの	冬季を想定した災害対策は大切な視点ですが、具体的な取り組みについては、今後、計画策定作業を行う中で検討していきます。
		(地域防災) ・防災は様々な事態を想定して個々の立場でどういう備えができるかを考えておく、普段からの意識が必要		B 同様の趣旨が含まれているもの	地域全体で防災対策に取り組むため、日頃から市民の防災意識を高めることについて記述しており、ご意見の趣旨は盛り込まれているものと考えます。
	地域社会づくり分野	(地域コミュニティ) ・高齢、核家族社会の地域づくりは、いつでも声をかけ合える人づくり、土壌づくりがポイント。 ・互いに自分の身近な人とのつながりに視点を置いて見通してみるライフスタイルが必要。 ・生ぬるいといわれても、社会が良くなり、職場が良くなることで自分も良くなれるという風潮づくりが必要。 ・ゆるやかに風が流れ、ほっとできる空間づくりが必要。		B 同様の趣旨が含まれているもの	P12「めざすまちの姿」の「地域社会づくり分野」において、住民同士のつながりや信頼関係構築の必要性について記述しており、ご意見の趣旨は盛り込まれているものと考えます。
(地域コミュニティ) ・それぞれの目的を持って活動している組織が地域の課題について共通認識を持ち、活動に活かしていくためのネットワークづくりが必要。			B 同様の趣旨が含まれているもの	P16「高齢者福祉」において、地域で高齢者を支えるネットワークづくりについて記述しているほか、P25「教育環境」において、学校・家庭・地域の連携について記述しているなど、ご意見の趣旨は各分野において盛り込まれているものと考えます。	